

**第47回NHK杯全国高校放送コンテスト  
ならびに校内放送活動研究集会の概要**

1. はじめに

高等学校における校内放送活動は、それぞれの学校の生徒会活動、クラブ活動の中核であり、エネルギー源となっています。

さらに、高校生活の中に高校生らしい豊かなうらおいを育て、心のふれあいの場をつくるため日々活動しています。

この校内放送活動の健全な育成と高校生の豊かな人間関係をはかる場として、また、美しく豊かな日本語を育て、教師と生徒の心のふれあいを深める場として、第47回のコンテストは下記のとおりNHKホールをメイン会場として東京で実施し、盛会裏に終了しました。

**第47回コンテスト日程一覧**

月日	7月20日(木)	7月21日(金)	7月22日(土)	7月23日(日)
部門				
※1 総合受付	15:00~18:00 オリンピックセンター センター棟414号室	9:00~15:00 オリンピックセンター 千代田放送会館	9:00~12:00 オリンピックセンター 千代田放送会館	
校内放送 研究発表会			9:00~15:00 オリンピックセンター センター棟409号室	
アナウンス		準々決勝 9:00~12:00 オリンピックセンター棟 A会場 417号室 B会場 501号室	準決勝 9:00~12:00 オリンピックセンター棟 311号室	各部門 勝  NHKホール 9:00~16:00
朗読		準々決勝 13:00~17:00 オリンピックセンター棟 A会場 417号室 B会場 501号室	準決勝 13:00~16:00 オリンピックセンター棟 311号室	
ラジオドキュメント		準々決勝 9:00~17:00 オリンピックセンター棟 A会場 101号室 B会場 401号室 C会場 402号室 D会場 403号室	準決勝 9:00~16:00 オリンピックセンター棟 401号室	
テレビドキュメント		準々決勝 9:00~17:00 オリンピックセンター棟 A会場 309号室 B会場 310号室 C会場 311号室 D会場 416号室	準決勝 9:00~16:00 オリンピックセンター棟 309号室	
創作ドラマ		創作ラジオドラマ準決勝 9:00~17:00 千代田放送会館	創作テレビドラマ準決勝 9:00~17:00 千代田放送会館	
コンテスト 事務局長会議		18:00~20:00 オリンピックセンター センター棟405号室		

2. 大会参加状況

全体参加状況

	各都道府県大会	全国大会
出場校	1,571校	464校
参加生徒	17,896人	第1日 延べ3,378人 第2日 延べ1,970人
NHKホール入場者(第3日)		3,087人

部門別出場状況

部門	地方大会	全国大会
アナウンス	3,881名	192名
朗読	5,583名	192名
ラジオドキュメント	526作品	173作品
テレビドキュメント	552作品	170作品
ラジオドラマ	594作品	47作品
テレビドラマ	283作品	43作品
研究発表	80校	43校

3. 大会概況

(1) この大会は、全国の1,571校におよぶ高校の17,896人の生徒が参加した各都道府県の地方大会で優秀な成績をおさめ、推薦された生徒ならびに作品が参加した。

7月21日(金)から23日(日)までの3日間に、8,435人の放送部員及び委員会の生徒と指導教師がNHKホール等集まり、各部門で技を競うとともに、高校生と放送の在り方や、日頃の活動の成果について話しあった。

(2) 統一テーマ「『われら高校生』と放送」のもとドキュメント部門は、高校生活や地域社会とのかかわりの中に広く素材を求め、ラジオ・テレビの特性を生かして制作された。高校生としての視点を大切に、独創的な作品が発表された。それぞれ現代に生きる高校生の姿が、生き生きとした音声や映像で表現されていた。

(3) 校内放送研究発表会では、各学校の放送部(委員会)の実践の成果が発表され、参加した学校のよき指針となった。

(4) 各都道府県のコンテスト担当者などが出席して行

なわれた「校内放送指導者協議会」が、7月21日(金)午後6時からオリンピックセンター405研修室で行なわれた。50名の参加があり、ここでは、第48回コンテストについてや「これからのNHK杯高校放送コンテストを考える会」の経過について報告された。

(5) なお各部門の優勝者(校)には、文部大臣賞、NHK杯、NHK会長賞が贈られ、創作ドラマ部門の優勝校には、日本放送作家協会賞が贈られた。

(6) 今回のコンテストは、決勝当日の夕方7時のニュースで、NHKホールの審査の様子及び審査結果が放映された。

例年通り、このコンテストに参加したテレビ番組をもとに、高校生の姿を紹介する特別番組が、次の日時に放送された。

○「夏のラジオクラブ」〈高校生ラジオメッセージ〉  
3回シリーズ：ラジオ第2放送

平成12年8月23日(木)~25日(土)

午前10時05分から10時35分

○「夏のテレビクラブ」〈ティーンズ・ビデオ'2000〉

3回シリーズ：教育テレビ

平成12年8月14日(月)~16日(水)

午前11時00分~11時45分

## ■朗読部門 —優勝—

## 朗読との出会い

東京都立三鷹高等学校 田中明日美



コンテスト当日、緊張していた私に「堂々と読んでこい。」と顧問の先生が励まして下さいました。ああ読もう、こう読みたいと思っても舞台上では自分の思うようにはいかず、口だけが勝手に動いていく感じでした。だからこそ、日頃の練習で自分の読みが自然に出来るように訓練することが大切だと痛感しました。

朗読を始めたのは高校に入ってからです。1年生の頃はどの読みが良いのかも分からず、顧問の先生に指導されるままに、やみくもに読んでいました。

「人に伝える」には聞き取りやすいことを基本として、発声や発音からはじまり、単語と単語、文と文のつながり、アクセントなどの基礎練習を行いました。

表現の練習では「素直に伝える」ことを心がけました。聞く人に分かるように素直に自然に読むことです。上手な人の表現の真似をしてみても、それはその人のもので自分の表現ではありません。朗読に決まった型はないと言う所以なのでしょう。自分勝手な解釈と自分らしい表現とは違うのだと教えられ、自分の表現(持ち味)を探し、自分なりの読みを形作って身につけるのは最も難しい練習でした。

高校での3年間の活動を振り返って、朗読という新しい世界に触れることができ、忘れることの出来ない良い経験となりました。そして予想もしていなかった優勝という最高の結果が得られたことを大変嬉しく思います。

最後に、指導、支援して下さいました顧問の先生と周りの方々へ感謝します。本当にありがとうございました。

## ■ —準優勝—

## 人に伝えるということ

佐賀県立致遠館高等学校 出雲久美子



「朗読や、人に聞かせるものは心が豊かじゃないとできない。賞を取る事ができたのは心が成長したということだよ。」これは私が初めて賞を取った2年生の時に叔父が言ってくれた言葉で、それ以来私の心の支えとなっています。

友達に誘われて何となく入った放送部。そこでの素晴らしい先輩方や友達との出会い。友達がいなかったら、今の私はいないと断言できます。朗読やアナウンスは個人競技です。しかし、私一人だったら部活を続けること、まして上達することはなかったと思います。読みについて友達からのアドバイスを素直に聞けるようになった時から私の読みは変わったように思います。それからは精一杯がんばっても成果が出せずに悔しい思いをしている友達の心から思いやることができるようになりました。そんな仲間とのぶつかり合いの中、築き上げてきた放送部での全過程が今回の結果につながったのだと思っています。

人に気持ちを伝えたい。私が読む箇所はこんなに素敵などころなんだと分かって欲しい。この様な気持ちは朗読に限らず人とのコミュニケーションを取る際にも大切な事なのではないでしょうか。朗読を通して多くの人とコミュニケーションを取ることができるようになること。それが私の今後の目標です。

この3年間、放送を通して素晴らしい人々にめぐり逢えたことや、その人達と一緒に頑張ってこれたことは私の誇りです。今まで逢えた人々に感謝の気持ちで一杯です。どうもありがとうございました。

## ■アナウンス部門 —優勝—

## 仲間を支えられて

長崎県立長崎北高等学校 戎屋絃子



NHKホールでの決勝大会。これまで競い合い、励まし合ってきた長崎の仲間が四人ともステージに立っていました。そのことだけでも、もう夢のような気持ちで、演技している時は頭の中は真っ白な状態でした。そして、成績発表。「優勝、長崎県…」という言葉が耳にした瞬間、「ああ、未央ちゃんだ。よかった。それとも、サヤカかな。」などと友達のこととして喜んでいました。まさか私が優勝するなんて夢にも思っていなかったのです。

私が全国大会に出場でき、しかもNHKホールのステージに立てたことは、仲間の支えなしには考えられません。発声練習の時、原稿を書く時、読み方で悩んでいる時、いつも私の周りには仲間がいました。同じ学校の放送部の同僚・先輩・後輩、県内の他校の放送部員たち。そして、長崎県高文連放送専門部の顧問の先生方の熱心な指導がありました。

毎日放課後、部員と競い合って大声で発声練習をしました。母音と呂律に弱かった私は、特に、ア行・ラ行の発声練習に力を入れました。また、仲間同士でよく原稿を推敲し合いました。伝えたいことがうまく表現されていなかったり、文の順序を一つ入れ替えるだけで印象が変わったりと、お互いに得るものがたくさんありました。読みでも自分ではなかなか気づかない欠点も人に聞いてもらうとすぐに分かります。自分の原稿を仲間にも読んでもらったこともあります。自分とは違う音の高さ、緩急の付け方、間の取り方など、随分と参考になることがあります。自分にはない仲間のいい面を見つけ、自分の読みにうまく取り入れていくのも大切ではないでしょうか。日常会話では長崎弁で話すことの多い私は、普段からアクセントに気をつけて話すべきだったと、今反省しています。

私の優勝を自分のことのように喜んでくれた、北高の放送部員・長崎県内の放送部の仲間たち。ほんとうに心から感謝しています。ありがとう。

## ■ —準優勝—

## 素直な読み

大分県立三重高等学校 森 郁江



私は、読むことが大好きです。自分の読みに自信があるから、上手だからといったことからはありません。ただただ、読むことが楽しくて、しかたないのです。

私は今回、初めての出場だったのですが、たくさんのお話を学びました。その中に「素直な読み」というものがあります。「素直な読み」とは、一体どのような読みなのか。これは、ただ単に「読む」だけではありません。かと言って、「素直な気持ち」だけでもありません。自分の情報を、聞き手に伝えるということです。

読む時、一番好きな人に、伝えようと思えば、素直な読みができるのです。伝える方法は言葉だけではありません。目で語るのです。伝えようと思えば、そのまま、その気持ちが何もしないで、出てくるのです。

そして、自分の舞台を作ることが大切だと思えます。どれだけ多くの人を、引きつけることができるか。人を、引きつけることは、とても、むずかしいことです。しかし、素直に自分の気持ちを伝えようと思えば、その気持ちは、自然と、読みに現れるのです。そして、表情も変わってきます。

自分の言葉を伝えて下さい。そして「素直な読み」をして下さい。読みに素質などありません。努力と、根気と、気持ちです。

最後に、先生、放送部のみんな、指導して下さった麻生さん、そして家族のみんな、この他、たくさんのおかけで、準優勝という素晴らしい記録を残すことができました。本当に、ありがとうございました。

## ■ ラジオドキュメント部門 —優勝—

## 「私たちの The Greatest Hit」

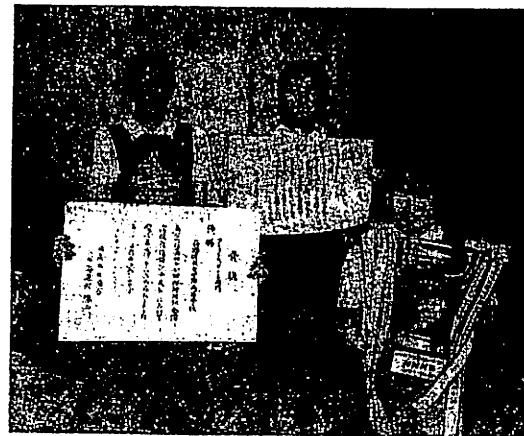
長野県 長野清泉女学院高等学校

NHKホール。放送に携わっている高校生ならば、一度は立ちたいと願う場所。私たちはステージに立つことを夢見て今まで頑張ってきました。「長野清泉」がスクリーンに映し出された時の驚きと、自分たちが作った番組がNHKホールに流れ、沢山の方々に聴いていただいた喜びは忘れることができません。

昨年度、ラジオ番組の2本ともが全国大会の準決勝に進みながら、インタビュー部分だけのレベルが出ないというハプニング。収録に使ったマイクケーブルの位相がずれていたのです。あの時、先輩と誓った「来年こそ、優勝だ!」。この言葉を胸に、地道な取材を重ねました。顧問1人、コンテスト参加メンバー9人という頼りなさ、この「The Greatest Hits of 長野」は4人のスタッフで完成させました。

県歌「信濃の国」は、長野県を語るときには欠くことができません。作詞から100年が過ぎて、世代を越えて歌い継がれる歌は、数少ないと思います。他の県では、県歌が歌われる機会は少ないのだそうですが、長野県では義務として押しつけられたのではなく、生活の中で愛され、自然と定着しました。長野県中を歩き回って、取材を進める中で新たに発見したことは多く、特に県民の皆さんの温かい人柄には感激しました。改めて、長野県の素晴らしさを感じました。「信濃の国」は、深い歴史を持つとともに、県民の数え切れないほどの思いが込められていました。この番組が、特に若い世代の皆さんに、「信濃の国」を再認識していただくきっかけになれば幸いに思います。

今回の番組が、私たちの「The Greatest Hit」になったことをとてもうれしく思います。私たちの宝になることでしょ。



## ■ —準優勝—

## 「あの橋を越えて」

兵庫県 啓明女学院高等学校

放送部に入ってからずっと呪文のように言い続けた全国大会出場! 「信じればいつか夢は叶う」その言葉を信じて今まで、がむしゃらに走り続けてきました。それができたのは、親身になって考え、時には叱ってくれた顧問の先生と、嬉しいときいつも一緒になって笑い、悲しいときや辛いときいつも一緒に悩んでくれる仲間がいたからだと思います。

この作品「あの橋を越えて」は学校行事の一環の特別礼拝で、国立ハンセン病療養所長久光明園から来られた金地慶四郎さんのお話を聞いたことから始まります。私はそこで、初めてハンセン病のことを知りました。そして「差別」にあいながらも、元気に力強く立派に生きている人の姿を目のあたりにして、私は大きな衝撃を受けました。

それから数日後、私たちは特別礼拝の感想文を朗読したテープを届けに金地さんに会いに行きました。

その時、金地さんは私たちに、一つの歌と伝えたいことを教えて下さいました。金地さんの歌声は、優しく、そして力強く、でもどこか切なく、私たちの心の奥底に響いたのでした。この世の中には、まだまだ弱い状況にありながらも精一杯頑張って生きている人がたくさんおられることを思い知らされました。そのような中、私たちに何ができるのだろうか? と考えたときこの作品を作ることを思いつきました。私たちが大好きな放送を通して、多くの人に伝えようと思ったのです。

“一人でも多くの人に伝えたい”イコール“全国へ行きたい”という思いが、日に日に大きくなってこの作品ができました。それだけに決勝のNHKホールで番組が流れ、多くの人々に聞いていただけたことが、何よりも嬉しかったです。みなさん、本当にありがとうございました。そして、放送部のみんなありがとうございました。



## ■ テレビドキュメント部門 —優勝—

## 『高校性』を製作して

高知県 高知市立高知商業高等学校

私達、高知商業高校放送部は、高知県の十代の人工妊娠中絶率が、日本で5年連続ワースト1位であるという事実を知ったことから、性についての番組を制作したいと思い、ピアカウンセリングやNHKの“てれごじ。”という番組などを取材ははじめました。

しかし、テーマが“性”。取材はしたものの、どうこのテーマを扱って番組にすればいいのか、どのような構成にすればいいのか、結構、悩まされました。高校生の番組とはいえ、これは決して軽く扱ってはいけない問題なのであります。

いろいろ考えた結果、私達は取材を行った時に感じた疑問などをそのまま、素直に番組にしていくことにしました。これによって、高校生の視点で、性についての番組が制作できたのではないかと思います。

また、この番組の魅力でもあるインタビューは、男子生徒や女子生徒、それに加え先生と、いろいろな人にさせて頂きました。もちろん質問内容は“性”。ですから、はじめは答えてもらえないんじゃないだろうかと大変心配していました。特に、先生にインタビューする時などは、どんな反応が来てくるのかまったく分からず、本当に緊張していました。しかし意外なことに、多くの先生が恥ずかしがりながらも答えてくれただけでなく、「こういう活動は良いことだ。ぜひ、がんばってほしい」と、逆に応援してくれる先生もいたのです。

今回、この番組を制作したことによって、あらためて性について、私達自身が見つめ、考え直すことができたと同時に、私達、高知商業高校放送部が本当に多くの人々によって支えられているんだということに気づかされました。番組制作に協力してくれた皆さん、本当にありがとうございました。



## ■ —準優勝—

## 仏を探して出会ったものは

兵庫県立猪名川高等学校

私達猪名川高校放送部は、2ヶ月に1本「いながわビデオだより」(いなび)という地域情報番組を制作しています。今回の「仏プロジェクト」は他のテーマでのいなびの取材中に、町北部の山奥にあるという磨崖仏(磨崖)の話の偶然聞いたことから始まりました。

私達は自分の住んでいる町のことを本当に知らないということ、いなび制作の過程でこれまで度々思い知らされてきました。今回は身近にこんなものが有ったのかという驚きとともに、地元の人たちにも良くわからない謎を探っていく楽しさを味わいながらの番組制作でした。取材を重ねる度に新たな発見があり、またとんとんと謎が湧き出てきて、取材がほんとうに楽しく新鮮でした。

この番組を作り始めた当初は磨崖仏そのものを番組のテーマとして位置付けていました。しかしいくら探しても見つからないいらだちの中で、磨崖仏を探している自分達自身の姿を番組の中心に据えるという発想の転換を行いました。それまではなるべくカメラに入らないようにしていた放送部員が番組を進行させる役割を担ってカメラの前に立つことになりました。

私達はこの番組の制作過程で、目的の磨崖仏の他に、たくさん素敵な人々に出会いました。普段接する機会が少ない町のお年寄りとのやりとりは、この番組の構成上無くてはならない要素になったと思います。NHKホールで観客のみなさんから良い反応がいただけたのもこれらの方々のおかげです。

この番組を制作するにあたって地域住民の方々のお世話になり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。猪名川町、能勢町のみなさん、ありがとうございました。これからも私達にいろいろなことを教えてください。



■創作ラジオドラマ部門 優勝

この感動は1年前のNHKホールから

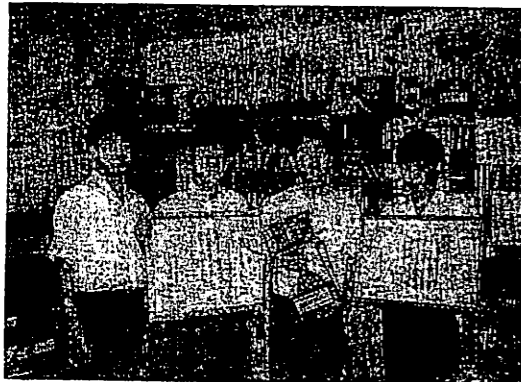
長崎県立長崎南高等学校

第47回NHK杯での優勝。この感動は、実はちょうど1年前から始まっていました。昨年の創作ラジオドラマ部門で優勝した札幌稲西高校には悪いけれど、私たちは昨年のNHKホールで、準優勝だった松商学園の「青春週刊」にいたく感動したのです。そして、同じように等身大の高校生を扱ったラジオドラマを作りたい。できることなら「青春週刊」がとれなかった栄光を…と呑気に考えはじめ、私たちの作品「転校生と花火と調査票」の制作はスタートしました。

青春といえば高校生。じゃあ高校生といえど、「進路」というテーマはあっさり決まりました。「青春週刊」を超えるのだから、ということで、無謀にも収録用台本の表紙には、デカデカと「全国優勝予定作品」の文字を書きました。しかし、この「予定」の文字が消えるまでの困難は数知れず。手伝ってくれた演劇部員どうしのケンカをはじめ、収録よりも役者の機嫌をとることに疲れてしまったこともあったし、花火を見上げて吐くクサイセリフについて大きくもて進まなくなったこともあり。また、切直前に編集が間に合いそうにもなく、自宅に機材を持ち帰ってやったこともあり。

脚色に脚色を重ね、このドラマの台本は、最終的に第8稿にもなりました。しかし、台本の苦勞の割には、演技力の欠如や編集精度の悪さなど、出来上がった作品については満足いかない点ばかりでした。しかし、県でたった1作品という狭い枠をどうにか強豪の他校を押さえて獲得し、全国大会にきて、最後にはこうしてNHKホールで思いっきり泣くことができました。

この最高の結果を残すまでの放送部員や先生方との活動の日々、そして演劇部の手助けを私たちは一生忘れません。本当にありがとうございました。



■ 準優勝

『伝える』って素晴らしい!!

北海道室蘭栄高等学校

「『伝える』ってなんて素晴らしいんだろ!!」 今回の作品、『私の口 私の声 私の耳』を聞いてくれたみなさんには、このことを心の底から実感して欲しいです。

日々、『伝える』活動をしている私達。でも、『伝える』って一体どういうこと???

という思いから始まった今回のドラマ制作。しかし、その過程はまさに、四苦八苦の連続でした。

シナリオ作成では、やっぱりうまくテーマを伝えられずに、たまるたまる、ボツ原稿。寝ても覚めても頭の中はドラマのことだらけ、という毎日が続きました。編集作業は徹夜となり、「もう間に合わないよ〜」とついには泣き出す始末。(それでもしっかり手は機械を動かしていた)一番大変だったのが、ラジオという音だけの世界の中に、いかにして聾啞の少女を存在させるかということ。字を書く音でそれを表現したわけですが、そのSEには相当こだわりました。他にも、耳が聞こえない気持ちを少しでも理解しようと、耳栓をはめてみたり、ビデオ聾啞者のしゃべり方を研究したり…。とにかくいろんなことを試したけれど、なかなか思うようにはいかないもの。挫けそうになったことは数えきれません。

それでも、「伝えたい!!」という強い思いが、私達を最後まで頑張り抜かせました。

そして手に入れた、初の全国準優勝。もう今は喜びで胸がいっぱいです!

この喜びをわかち合える最高の仲間達に、この成功のために多くのご指導をいただいた顧問の先生に、この作品作りをいろんな面から助けてくれた、すべての人に伝えたい。

本当に本当に…「ありがとう!!」



■創作テレビドラマ部門 優勝

「ナイスサーブ」への大きな拍手に皆さんの「友情」を感じました!!

長野県 松商学園高等学校

私達は、メンバー9人(3年生4人、2年生5人)でこの番組を作りました。なかなか題材も決まらず、1度は別のドラマを作ったりもしました。それでもなにか物足らず4月後半シナリオを全て変えてこの番組を作るようになったのです。たくさんの苦勞がありました。このドラマはテニス部員が主人公のため学校のテニスコートを借りることになり、大会前だというのにテニス部の皆さんには本当に迷惑をかけました。その少しの時間を必死に撮影しました。朝早く、夜遅くの撮影は本当に大変でした。演技も初めてうまくできないし、どうしたらみんなが感動するような「友情」を描き伝えられるか、何度も何度もやり直し納得がいくまで頑張りました。9人もいと人間関係もあり、しかも「間に合うのか…」というあせりや不安もあり、涙を流すこともあり。でもせつかくなんだから私達3年生にとっては最後だし楽しいころ!と気持ちに余裕を持つようにし、みんなで1カ月ぐらい必死で取り組みました。演技をやり直していくうちにみんなだんだんうまくいっていき、自分でもこうしたほうがいいかなとか考えるようになりました。そして編集も最後の詰めに入り、完成した時は本当にうれしかった。「友情のすばらしさ」というテーマを伝えるために制作したこの番組。楽しかった事、つらかった事全てこの9人で乗り越えてきて本当によかったと思います。番組を作るということで自分達も改めて「友情」という事を見つめ直し、協力してここまでこれたんだと思います。

NHKホールでの放映の時の大きな拍手、全国の皆さんありがとうございました。とてもうれしかったです。まさに、拍手に「友情」を感じました。



■ 準優勝

AGAIN座談会

兵庫県立東播磨高等学校

- みわ ふう、コリャびつくらこいたってのよ
- さくら 準決勝終わった時点でもう諦めてたもんね
- 生徒C っゆ一かさあ、準優勝ってスゴクない?
- 全員 思う、思う
- 生徒B この番組、半年以上もかかったんだよね
- 生徒A でもさあ、なかなか楽しかったよね
- 生徒D …本当に楽しかった♥
- みわ つーか、このトーク、テレドラ依存症っしょ。
- 生徒D、メチャ普通やしなあ
- 生徒B そうそう、標準語めげないしねえ
- さくら 何かあるたびに台詞のマネしてたよね…
- 「やっば暗いよね、〇〇ちゃんは!」とかねえ
- 生徒C でも台詞がめげなくなるくらい思い入れが強かったってことやんな
- 生徒A 作るの大変やったけど、つらくはなかったな
- さくら そう、たとえ32回もピンクくらってもね
- みわ でも、どんどん本気になってたもん。本気と書いてマジね。うん。
- 生徒D …ミンナと作れてヨカッタ♥
- 生徒B 来年はさらにいい結果が出るようにがんばろうね!!

全国大会終了後の座談会より生ログでお送りしました。作品自体はとてもシリアスな内容でしたが、制作は和気あいあいとした空気の中で進めることができました。自分たちが楽しみながら制作した番組がこのような結果が頂けたことを嬉しく思います。最後にこの作品に協力してくれたみなさんに感謝します。



## 第47回NHK杯全国高校放送コンテスト講評

### アナウンス部門 決勝

1. 長崎・県立長崎西 森川明香 333点  
途中から音が下がる。バランスはよい。音量、間の取り方よい。
2. 長崎・活水 清水未央 329点  
センテンスが少し長くみえる。緩急に気をつけて。
3. 大分・大分東明 玉野井雅美 331点  
同じトーンで句末を落とさない。聞きやすいアナウンス。
4. 熊本・県立熊本 亀井美希 333点  
次の意味句の出が低く出る。原稿内容、間の取り方よい。
5. 長崎・県立西陵 中村友美 331点  
バランスよい。文章はよくまとまっている。聞きやすい。
6. 岡山・就実 大塚香奈 316点  
無声化注意。一言一言の発音を丁寧に。間の取り方よい。
7. 東京・桐朋女子 河原千紘 318点  
もう少し原稿の読み込みを。全体的に固さがある。テンポよい。
8. 青森・青森明の星 原 侑子 326点  
少し声をつめる感じ。イントネーションに注意。声良く出ている。
9. 大分・県立三重 森 郁江 338点  
少しトーン低い。文章表現がうまい。間の取り方、発声よい。
10. 長崎・県立長崎北 戎屋紘子 341点  
息づかいは保っている。テンポ、緩急、間の取り方よい。

### アナウンス部門 準決勝

- 314点以上決勝進出
1. 宮崎・県立宮崎南 中西可奈 302点  
イントネーションにくせ少々、後半自然でよい。明るく好感の持てるアナウンス。テンポよい。
  2. 埼玉・県立川越女子 福内聡子 286点  
聞き取りにくい音あり不明瞭。明るくはつらつとしたアナウンス。素直な読みで好感が持てる。

3. 神奈川・県立多摩 矢島悠子 307点  
語りかける力あり。ラ行注意。自然で聞きやすい。テンポ、ポーズよい。原稿内容も面白い。
4. 京都・洛南 菊野雄太 298点  
読んでいる感じ。声良い。イントネーション注意。もう少しメリハリがつくとよい。
5. 沖縄・県立首里東 具志堅千恵子 283点  
張りのある声。内容は伝えている。発音甘いところあり。「5番」イントネーション。
6. 青森・県立青森 工藤麻奈美 295点  
少しマイクにのっていない。聞きやすく明るい。イントネーション注意。丁寧に読んでいる。
7. 福岡・県立城南 岩松祥子 309点  
力が入ってなくて良い。聞きやすいが読みが固い。最後の決めどころ丁寧に。
8. 長崎・県立長崎西 森川明香 決勝進出
9. 茨城・県立水戸第二 飛田明子 285点  
歌い上げる調子で内容が伝わらない。イントネーション注意。口の開きをもっと大きく。
10. 長野・松商学園 横川千代恵 291点  
読んでいる感じ。もう少し明るさが欲しい。訴えるものがもう少し欲しい。
11. 東京・昭和女子大学昭和 平井香奈 292点  
イントネーション注意。しっかり読んでいる。サ行音気になる。間の取り方注意。
12. 福島・県立福島女子 杉本麻紀 278点  
調子で読んでいる。元気で明るくテンポはいい。もう少し声が出るとよい。
13. 山口・県立光 加藤裕子 270点  
口の開きが小さい。テンポ少し早い。イントネーション気になる。語尾がやや上がる傾向あり。
14. 岡山・県立倉敷商業 三宅孝枝 291点  
間の取り方に注意。語尾伸び気味。不必要な切りがある。よく声が出ている。
15. 青森・青森明の星 泉谷純音 287点  
力はいっている。読みはしっかりしている。鼻濁音注意。原稿もう一工夫。
16. 千葉・県立佐倉 田川裕樹 290点  
少しテンポが単調。間の取り方に工夫を。よくまとまった読み。もっと前面に声が出るとよい。
17. 京都・洛南 平池拓一 286点  
口が回らないところあり。テンポ少し速い。もう一

- 歩の努力が必要。
18. 愛知・県立時習館 太田綾香 306点  
口の開きが今ひとつ。読みはしっかりしている。テンポよい。間の取り方を注意。
  19. 岩手・盛岡白百合学園 木村敬子 299点  
くせで読んでいる感じ。きれいな発声、発音。さわやかな読み。オープニングの一文が長すぎる。
  20. 長崎・活水 清水未央 決勝進出
  21. 大分・大分東明 玉野井雅美 決勝進出
  22. 愛媛・県立松山東 山内玲美 299点  
ポーズが不自然。歯切れはいい。番号をもっと元氣よく。原稿内容よい。もっとリズムを大切に。
  23. 兵庫・県立加古川西 田中智子 302点  
自然で聞きやすいが、切り方が機械的。原稿の内容はよい。しっかり読んでいるが固さが残る。
  24. 神奈川・県立六ツ川 大野鉄也 311点  
口の開きが甘い。テンポよい。元氣のあるアナウンス。イントネーション注意。
  25. 熊本・県立熊本 亀井美希 決勝進出
  26. 兵庫・県立北摂三田 岩橋祐一 290点  
イントネーションのくせで読んでいるが、聞きやすいアナウンス。ただ説明部分が多すぎる。
  27. 長崎・県立西陵 中村友美 決勝進出
  28. 群馬・共愛学園 江本涼子 308点  
調子がついているところあり。声は明るく元氣。もう少し力強さがあってもよい。
  29. 富山・県立魚津 辰 比呂子 313点  
ゆったりとした語り口で聞きやすい。しっかり読んでいる。素直な読みで好感が持てる。
  30. 青森・青森明の星 柴田奈保 310点  
切り方が不自然。内容は伝えている。声はよく出ているが、口の開きをもう少し練習。
  31. 静岡・静岡精華 村松奈保 283点  
イントネーションのくせで読んでいる。しっかり読んでいるが元氣が欲しい。リズムも大切に。
  32. 千葉・県立千葉女子 中村直子 288点  
全体的に読みが固い。丁寧に読んでいるが、もう少し迫ってくるものが欲しい。
  33. 愛媛・県立松山中央 藤松智子 297点  
スピードの変化があって良い。少し力が入っている。もっと親しみやすく。語尾が強い。
  34. 福井・県立藤島 増田朋子 299点  
全体に自然な語り口。もう少し語りかけが欲しい。発音もう少し。単調になりがち。
  35. 広島・県立安古市 比羅岡裕子 294点  
発声が少し弱い。内容は伝えている。文の区切りを

- もう一工夫。意味のくくり方に注意。
36. 福岡・筑陽学園 高嶋朋子 313点  
良く訓練している。丁寧に読んでいる。はっきりした声でわかりやすい。
  37. 北海道・北海道札幌東商業 榊原由美 298点  
声の張り上げ方が不自然だが、明るく好感が持てる。口の開きをもう少し。
  38. 岡山・就実 大塚香奈 決勝進出
  39. 東京・桐朋女子 河原千紘 決勝進出
  40. 長野・長野県須坂 寺澤 泉 312点  
変化つける工夫はあるが、切りすぎ。少し力が入り固さが出た。
  41. 兵庫・県立加古川西 平井理士 286点  
音が流れきみ。読んでいる感じ。歯切れのいいアナウンスを。口の開きに注意。
  42. 群馬・県立渋川女子 高橋友希 287点  
少し音不明瞭。読み、テンポ少し速い。イントネーション注意。口をもっと大きく開けて。
  43. 鹿児島・県立鶴丸 逆瀬川久美 300点  
やや単調。発音に少し難あり。間の取り方に注意。
  44. 岩手・県立盛岡第二 及川歩実 313点  
変化の工夫はあるが少し不自然。読みはとてもはっきりしている。もっと親しみやすく読む。
  45. 熊本・九州女学院 藤本綾子 311点  
テンポいい。聞きやすく好感が持てる。発音をもっと明瞭に。語尾を丁寧に。
  46. 青森・青森明の星 原 侑子 決勝進出
  47. 大分・県立三重 森 郁江 決勝進出
  48. 長崎・県立長崎北 戎屋紘子 決勝進出
  49. 三重・県立上野 岸田真理子 279点  
音が不明瞭。発音しきれないところあり。文の句切りを一工夫。
  50. 宮城・仙台白百合学園 半杭真梨絵 306点  
声が弱い。読んでいる感じ。もう少し大きな声が出るとよい。

### 朗読部門 決勝

1. 和歌山・県立向陽 久嶋志帆 321点  
出だしの声が低い。ただし強弱は必要で同じトーンにしないように。立て直しの部分に注意。
2. 長崎・活水 松田布未 324点  
声がやわらかく、ゆったりしたリズムが良い。意味句のかかり方に注意する。段落ごとのまとまりをつけ、読み方が平板にならないように気をつける。
3. 広島・県立安古市 友澤和希 330点

当日課題はよくできている。間のとり方もよく単調にならなかった。

4. 東京・都立三鷹 田中明日美 345点  
間の取り方がよい。そのため聞いていて疲れない。発声の高低のとり方もよくできていた。
5. 兵庫・県立加古川西 八木さやか 319点  
全体的に発声で同じ強さの声を出しているのが気になった。読みが途中で切れないように注意すること。
6. 北海道・北海道旭川東 福士賢憲 325点  
発声中に音の高さをある程度保つことが必要。早く音が沈んでしまう。間のとり方はよくできていた。
7. 東京・桐朋女子 山本麻奈 321点  
発声の語尾の止め方が少し強い。区切り方ももう一步というところだったので工夫するように。
8. 佐賀・県立致遠館 出雲久美子 331点  
まとまりがあり、よく聞きやすかった。ただ、あがっていたのか、トチリとその言い直しが惜しかった。
9. 大分・県立大分南 高嶋和代 329点  
よくできていたが、発声の切り方に注意してほしい。止め句の語尾がのびているのが気になった。
10. 愛知・名古屋市立菊里 樋口喜美子 326点  
課題のできはまずまずです。文の切り方に気をつけたほうが良い。読んでいところが早い。

朗読部門 準決勝

311点以上決勝進出

1. 岡山・就実 西 真理子 285点  
明るい声で良いが、少し単調気味である。もう少し緩急をつけるとなお良い。
2. 大阪・相愛 清水淳子 307点  
声の質をうまく生かしている。課題が特に良い。テンポが速くなる部分がある。
3. 栃木・県立茂木 菊池香美 288点  
課題が良い。が、語尾が伸びるクセがあり自分の息づかいで読んでいる。
4. 愛知・県立時習館 山田実穂 282点  
明るい読みであるが、語尾が不明瞭な部分がある。「が」の処理に注意。
5. 静岡・浜松市立 清水彩乃 286点  
課題はまずまず。抑揚と語尾のイントネーションに注意する。
6. 北海道・北海道札幌丘珠 山田知佳 281点  
声質が良いが、感情移入が目立つ。語尾が伸びる傾向があり、切り方に注意。

7. 兵庫・県立龍野 石田由佳 288点  
課題が良い。発音がやや甘い。口の形を作りすぎである。もっと自然な発声をすればよい。
8. 和歌山・県立向陽 久嶋志帆 決勝進出
9. 長野・長野吉田 徳永舞子 278点  
ひとかたまりの句は一気に読むこと。発声・テンポが単調気味である。
10. 福岡・県立筑紫丘 山本ゆう紀 307点  
きれいな声である。発声が今一步。セリフの読み分けを明確にして、「が」の処理に注意のこと。
11. 北海道・北海道札幌北 下坂真沙美 292点  
課題が特に良い。やや作り声に聞こえるので、抑制したほうが良い。
12. 長崎・県立長崎西 川口安子 302点  
きれいな声である。テンポよく読んでいる。スローの部分がある。「が」の処理に注意のこと。
13. 長崎・活水 松田布未 決勝進出
14. 茨城・県立日立第二 高橋 恵 300点  
落ちついたテンポで読んでいる。聞き易いがやや単調気味である。課題で安定感がいまひとつ。
15. 青森・青森明の星 田中美智子 294点  
丁寧な読み方だが、ずっと同じ調子である。メリハリがほしい。
16. 滋賀・比叡山 石田菜津子 282点  
課題は素直な読み方で良かった。抑揚がもっとほしい。コンディションに気をつけよう。
17. 長野・松商学園 佐藤佳奈 297点  
課題で語尾のイントネーションが気になった。単調にならないように気をつけた方がよい。
18. 広島・県立安古市 友澤和希 決勝進出
19. 岩手・盛岡白百合学園 中村美智子 289点  
ソフトな読みだが元気がほしい。声が遠くなるどころがある。マイクの使い方に気をつけて。
20. 鹿児島・鹿児島 川原加奈子 290点  
やや早口か。マイクが近い。地の文の読みが単調になっている。声質は良い。
21. 福岡・県立小倉 桑原結美 298点  
落ちついて読んでいるが、一文の中の切れ目がはっきりしない。もっとメリハリをつけて。
22. 埼玉・県立三郷北 渡辺宣行 304点  
きれいな声だが、少し単調気味。意味に合わせたイントネーションを。題名までの部分をもっと大切に。
23. 富山・富山 白川奈津子 289点  
下をむいていたため、声が押し殺されて暗くなりがち。演劇調で不自然。課題文の方が良い。
24. 宮城・仙台白百合学園 川原林愛子 297点

- 読み方が力強いのはいいが少したきつけるような言い方がマイナス。課題の方が自然で良い。
25. 東京・都立三鷹 田中明日美 決勝進出
  26. 広島・広島市立基町 秋末沙織 303点  
上手な読みだがやや弱い。文脈の中での強弱も考えよう。
  27. 北海道・札幌日本大学 山縣里美 307点  
話し方をもう少し抑えたほうが良い。課題ももう少し素直に。文章の切り方に注意。
  28. 滋賀・県立石山 長谷川和美 289点  
もっと一息で読む場所を増やそう。良いテンポで読んでいる。もう少し力強さがほしい。
  29. 千葉・県立小金 黒木美佳 299点  
課題は良い。マイクとの距離にもう少し神経を使いたい。
  30. 山梨・山梨英和 進藤久宇 306点  
少しマイクが遠い。キレイな読み方で情景がよく伝わってくる。声ももう少し出した方がよい。
  31. 長崎・県立長崎北 越道 梢 310点  
マイクが近すぎた。距離を考えよう。語の一部が不明瞭。「ね」が「にえ」に聞こえる。
  32. 兵庫・県立加古川西 八木さやか 決勝進出
  33. 北海道・北海道旭川東 福士賢憲 決勝進出
  34. 熊本・県立人吉 尾方佑三子 302点  
きれいな声で安定感がある。もう少し明るい声がいい。「よそわせて」の部分で少し聞き取りづかった。
  35. 東京・桐朋女子 山本麻奈 決勝進出
  36. 栃木・県立栃木女子 中山芽実 298点  
落ちついてよく読んでいるが、やや単調になる部分があった。イントネーションに注意。
  37. 大阪・聖母被昇天学院 鈴木慶子 286点  
丁寧に読んでいるが一文一文の間の取り方をもう少し工夫したい。
  38. 宮城・東北学院榴ヶ岡 笠原千佳 290点  
はっきりした声でよく読んでいる。助詞「と」の独立が気になる。テンポにばらつきがみられた。
  39. 佐賀・県立致遠館 出雲久美子 決勝進出
  40. 大分・県立大分南 高嶋和代 決勝進出
  41. 愛知・名古屋市立菊里 樋口喜美子 決勝進出
  42. 沖縄・県立読谷 結城信哉 305点  
よく読んでいるが淡々としすぎ、もっと力が入ってもよい。もう少し元気がほしい。
  43. 石川・県立金沢二水 井口健太 300点  
課題はうまい。説明文は説明文らしく伝えること。発音は明瞭に。

44. 福岡・県立嘉穂 清水さやか 303点  
マイクが近いのもっと位置を考えて。抑えて読むように。
45. 静岡・日本大学三島 勝呂 舞 291点  
はっきりした声でよく読んでいるが発音が甘い。テンポが早くなる部分がある。
46. 長崎・県立長崎北 田中麻衣子 308点  
セリフまわしはうまいが、語尾の部分で少し早くなる。間はよく取れている。
47. 栃木・県立栃木女子 大森あずさ 292点  
安定した読みだが、早口でややメリハリが足りない。
48. 宮崎・日向学院 神戸麻子 297点  
課題は明るく聞きとりやすい。早口の傾向がある。ダ行が甘い。表現に工夫を。
49. 佐賀・東明館 北島慶子 283点  
課題はうまい。元気がない。もっとすっきりと。語尾が消えるところがある。
50. 北海道・札幌日本大学 小野朝依子 299点  
きれいな声である。助詞の扱いに注意する。語尾が伸びるところがある。

ラジオドキュメント部門 決勝

1. 長野・長野清泉女学院 352点  
教育力の如何に盛んなのかと言うことを、歌という意外な切り口から解明している。論理的であり、しかもラジオ的（音楽的）効果もすばらしい。
2. 広島・比治山女子 337点  
何度となく取り上げられる内容であるが、さげられないテーマであり丁寧な作り。語りがとても聞き取りやすい。「広島は今」をもう少し描ければ。
3. 長野・松商学園 336点  
一人の人間の人生の重さを正面から見据えて、きちんと聞き取り、紹介している。落ち着いた語りが良いが、音楽が効果を出していない。
4. 兵庫・啓明女学院 343点  
主人公の激しい人生とともに、人柄も伝えている。ハンセン病の持つ教訓を丁寧に描き、その迫力に打たれる。ラストがやや感情過多。

### 第47回NHK杯全国高校放送コンテスト予選結果

#### アナウンス部門

【A会場】289点以上準決勝進出

1. 静岡・日本大学三島 佐々木飛鳥 270点
2. 愛知・県立岡崎北 梅村亜衣 268点
3. 岩手・県立盛岡第三 岩手山千智 274点
4. 北海道・希望学園札幌第一 中島三千和 278点
5. 広島・鈴鹿女子 谷本真裕貴 276点
6. 岡山・山陽女子 八木晶子 288点
7. 宮崎・県立宮崎南 中西可奈 準決勝進出
8. 福井・県立丸岡 牧田章代 256点
9. 山梨・県立吉田 濱田梨香 260点
10. 秋田・県立秋田北 高橋智里 268点
11. 徳島・県立富岡東 森 郁子 257点
12. 熊本・県立人吉 前田綾花 249点
13. 滋賀・県立大津商業 鳥越綾子 244点
14. 埼玉・県立川越女子 福内聡子 準決勝進出
15. 兵庫・武庫川女子大学附属 久楽麻依 284点
16. 栃木・県立宇都宮女子 田野井真美 262点
17. 千葉・県立千葉女子 桐谷奈緒美 280点
18. 新潟・県立新潟中央 菊池 彩 263点
19. 神奈川・県立多摩 矢島悠子 準決勝進出
20. 京都・洛南 菊野雄太 準決勝進出
21. 香川・県立香川中央 楠原妙梨 284点
22. 島根・県立浜田 橋本美幸 268点
23. 鹿児島・鹿児島純心女子 早崎加奈 277点
24. 石川・県立七尾 久保亜希子 286点
25. 大分・佐伯豊南 石田裕美 276点
26. 三重・県立久居 河原千洋 268点
27. 沖縄 県立首里東 具志堅千恵子 準決勝進出
28. 山口・県立光 末岡佳子 250点
29. 愛媛・県立今治西 早瀬麻衣 265点
30. 佐賀・県立武雄青陵 山口久美子 281点
31. 大阪・相愛 林 愛佳 266点
32. 福島・県立福島女子 佐藤奈津子 272点
33. 青森・県立青森 工藤麻奈美 準決勝進出
34. 富山・福光 川端真由子 285点
35. 山形・山形城北女子 工藤美奈 287点
36. 岐阜・県立加茂 池井戸里水 276点
37. 福岡・県立城南 岩松祥子 準決勝進出
38. 和歌山・県立橋本 岩本 拓 280点

39. 長崎・県立長崎西 森川明香 準決勝進出
40. 茨城・県立水戸第二 飛田明子 準決勝進出
41. 長野・松商学園 横川千代恵 準決勝進出
42. 群馬・県立伊勢崎女子 狹野澄子 261点
43. 東京・共立女子 山元夕梨恵 282点
44. 北海道・北海道札幌月寒 木島郁美 284点
45. 奈良・奈良 村田 篤 252点
46. 高知・土佐女子 島村美絵子 268点
47. 鳥取・県立八頭 山本佳代 271点
48. 宮城・聖ドミニコ学院 百々麻美 268点
49. 山形・県立左沢 吉田綾子 268点
50. 東京・昭和女子大学昭和 平井香奈 準決勝進出
51. 佐賀・県立唐津東 古川美穂子 270点
52. 福島・県立福島女子 杉本麻紀 準決勝進出
53. 福井・県立大野 南部貴子 261点
54. 埼玉・県立松山女子 太田貴代子 253点
55. 滋賀・比叡山 西村亜起 252点
56. 北海道・札幌日本大学 安達政美 274点
57. 徳島・県立城東 森 美佳 265点
58. 山口・県立光 加藤裕子 準決勝進出
59. 静岡・浜松市立 田邊優子 288点
60. 岡山・県立倉敷商業 三宅孝枝 準決勝進出
61. 沖縄・県立八重山農林 金城美由紀 283点
62. 石川・県立金沢伏見 田澤友紀 255点
63. 青森・青森明の星 泉谷純音 準決勝進出
64. 千葉・県立佐倉 田川裕樹 準決勝進出
65. 京都・洛南 平池拓一 準決勝進出
66. 新潟・県立長岡大手 牧野真由子 259点
67. 大阪・相愛 山本久美子 271点
68. 愛知・県立時習館 太田綾香 準決勝進出
69. 群馬・新島学園 小山 陵 250点
70. 奈良・香芝 佐伯美津子 252点
71. 岐阜・県立加茂 大島有香子 263点
72. 岩手・盛岡百合学園 木村敬子 準決勝進出
73. 山梨・県立甲府西 佐野 梓 284点
74. 島根・県立松江南 糸川千恵美 262点
75. 富山・県立魚津 武隈美香 288点
76. 香川・高松東 松井優希 279点
77. 長崎・活水 清水未央 準決勝進出
78. 鳥取・県立鳥取西 池山久美子 266点
79. 大分・大分東明 玉野井雅美 準決勝進出
80. 宮崎・日向 矢野智江 284点

81. 三重・県立四日市 川平佳世子 269点
  82. 広島・比治山女子 益村千代 268点
  83. 福岡・県立田川 安藤絵麻 288点
  84. 北海道・北海道函館中部 吉田麻弥 286点
  85. 愛媛・県立松山東 山内玲美 準決勝進出
  86. 栃木・県立栃木女子 山岸真智子 261点
  87. 高知・県立高知追手前 福谷多記 253点
  88. 秋田・県立新屋 川越千秋 281点
  89. 兵庫・県立加古川西 田中智子 準決勝進出
  90. 長野・長野県松本美須々ヶ丘 竹内祐美子 288点
  91. 神奈川・県立六ツ川 大野鉄也 準決勝進出
  92. 熊本・熊本 亀井美希 準決勝進出
  93. 鹿児島・鹿児島純心女子 迫田江理 272点
  94. 茨城・県立水戸第二 長洲いつみ 284点
  95. 宮城・仙台百合学園 富田沙織 276点
  96. 和歌山・県立田辺 長谷光浩 282点
- 【B会場】293点以上準決勝進出
1. 佐賀・東明館 円口晴子 282点
  2. 愛知・県立岡崎北 片桐江美 284点
  3. 石川・県立内灘 根来彰子 273点
  4. 兵庫・県立北摂三田 岩橋祐一 準決勝進出
  5. 静岡・県立吉原 柳田麻里 271点
  6. 山口・県立山口 安部杏実 286点
  7. 長崎・県立西陵 中村友美 準決勝進出
  8. 千葉・県立土気 鶴山昭平 279点
  9. 鹿児島・県立鶴丸 西 花奈子 291点
  10. 熊本・熊本商業 木村幸子 268点
  11. 秋田・県立能代 土崎 愛 286点
  12. 栃木・県立真岡女子 梅澤ひかる 288点
  13. 滋賀・比叡山 梅本遥名 281点
  14. 島根・県立平田 加田宏明 271点
  15. 岡山・就実 橋本里奈 282点
  16. 三重・亨栄学園鈴鹿 山田 瞳 269点
  17. 茨城・県立日立第一 後藤千鶴 263点
  18. 愛媛・県立松山東 白石理菜 283点
  19. 高知・県立高知西 坂本亜沙美 276点
  20. 新潟・県立新津 加藤恵理花 266点
  21. 北海道・札幌日本大学 遼美 梢 284点
  22. 福岡・県立嘉穂東 浦田智子 280点
  23. 大分・県立大分雄城台 手柴真由美 278点
  24. 岐阜・県立多治見北 畠山知子 276点
  25. 群馬・共愛学園 江本涼子 準決勝進出
  26. 奈良・桜井 星野美恵子 268点
  27. 神奈川・県立六ツ川 地村 怜 272点
  28. 東京・桐朋女子 田中茉莉子 288点
  29. 宮城・宮城県第一女子 我妻絵美 280点

30. 福井・仁愛女子 小川迪惟子 266点
31. 富山・県立魚津 辰比呂子 準決勝進出
32. 京都・ノートルダム女学院 小泉裕美子 282点
33. 和歌山・県立海南 市川裕章 262点
34. 青森・青森明の星 柴田奈保 準決勝進出
35. 北海道・北海道札幌北 山田香織 286点
36. 徳島・県立阿波 近藤沙織 259点
37. 宮崎・県立宮崎西 永禮千賀子 276点
38. 香川・坂出 田中智子 286点
39. 大阪・聖母被昇天学院 黒川里佳 281点
40. 長野・松商学園 西沢由佳 280点
41. 福島・県立相馬女子 荒 馨子 289点
42. 山梨・県立市川 鈴木由枝 286点
43. 鳥取・県立倉吉農業 山根智子 284点
44. 山形・県立楯岡 朝鳥絵里 285点
45. 岩手・県立盛岡第二 小山晴子 289点
46. 広島・県立呉三津田 西東美帆 286点
47. 埼玉・星野女子 古館友理 283点
48. 沖縄・県立首里東 松本 健 278点
49. 静岡・静岡精華 村松奈保 準決勝進出
50. 埼玉・県立松山女子 五十嵐麻由 277点
51. 福島・県立郡山 遠藤寛幸 282点
52. 佐賀・佐賀清和 榎原絵理 292点
53. 滋賀・比叡山 五島まやこ 279点
54. 千葉・県立千葉女子 中村直子 準決勝進出
55. 愛媛・県立松山中央 藤松智子 準決勝進出
56. 山形・県立山形北 森谷香奈 290点
57. 鳥取・県立鳥取東 小谷のり子 275点
58. 島根・県立浜田 丸山 翼 275点
59. 神奈川・法政大学女子 井上 妃 285点
60. 富山・県立魚津 奥村利恵 291点
61. 福井・県立藤島 増田朋子 準決勝進出
62. 広島・県立安古市 比羅岡裕子 準決勝進出
63. 福岡・筑陽学園 高嶋朋子 準決勝進出
64. 北海道・北海道札幌東商業 榊原由美 準決勝進出
65. 岡山・就実 大塚香奈 準決勝進出
66. 大阪・相愛 角 祐美 269点
67. 東京・桐朋女子 河原千紘 準決勝進出
68. 秋田・県立秋田 田口莉沙子 285点
69. 徳島・県立城西 湯浅友美 264点
70. 愛知・県立半田 嶋 夕紀子 278点
71. 岐阜・県立岐阜北 杉山ひとみ 268点
72. 長野・長野県須坂 寺澤 泉 準決勝進出
73. 栃木・県立鹿沼 山田直美 272点
74. 奈良・登美ヶ丘 美馬ゆき子 260点
75. 兵庫・県立加古川西 平井理士 準決勝進出

テレビドキュメント部門 準決勝

創作ラジオドラマ部門 決勝

1. 長野・長野県須坂 346点  
現代科学の裏側をテーマに取り上げた意欲作、ストーリーの結末をもう少し工夫してほしい。
2. 北海道・北海道室蘭栄 352点  
ペンを走らせる音だけで、しゃべれない少女をよく表現できている。テンポも良く登場人物の感情もよく表現されている。
3. 長崎・県立長崎南 365点  
構成がよい。意外な場面転換で進められて喜劇的な要素をうまくまとめている。



創作テレビドラマ部門 決勝

1. 北海道・北海道旭川東 331点  
現代の家族の問題をよく表現した作品。タイトルが魅力的、もう少し両親と会えない理由など状況説明をしてほしい。
2. 兵庫・県立東播磨 340点  
集団の中の暗い部分をよく描いている、後半の人間関係をもう少し丁寧に描いてほしい。
3. 長野・松商学園 342点  
意外なストーリーを、ユーモラスなテンポでよく描いている。紙飛行機などの小道具が効果的。





## ラジオドキュメント部門 準決勝

299点以上決勝進出

1. 東京・共立女子 265点  
なぜひサイクル運動を始めたのかまで、描いて欲しかった。コメントで述べず、インタビューで。
2. 北海道・北海道札幌丘珠 266点  
冒頭の説明が長いのが損。早く歌を聴かせて欲しい。テーマをよりシャープにしたい。
3. 広島・県立広島国泰寺 292点  
タイトル、イントロがおもしろい。各音がよく録れている。主人公とラジオの関係をもっと掘り下げたい。
4. 宮城・宮城県仙台南 296点  
問題の取り上げ方が身近で、高校生の一面を描いている。音もクリア。終盤ややテーマがぼけた。
5. 兵庫・県立小野 278点  
イントロうまい。パフォーマンスをもっと立てるとより説得力が出る。制作者の興味はどこにあるのか。
6. 長野・長野清泉女学院 決勝進出
7. 大分・三重 298点  
音をよく録っていて、炭琴の音がとてもよい。作っている時の様子もよく伝わり、イメージの広がる作品。
8. 青森・県立弘前 295点  
難しいテーマに着目した。切り口がややまとまらず、一般論的になってしまったのが惜しい。
9. 高知・県立高知西 274点  
ドラマはよくできているが、フィクションとノンフィクションとの整理がついておらずテーマが判りにくい。
10. 奈良・県立桜井 274点  
軽快でテンポがよいが、高校生としての視点、論旨がわかりづらい。もっと幅広い取材を。
11. 宮城・仙台白百合学園 286点  
インタビューの録り方はまずまずだが、やや長い。制作者のねらい目をより明確化させたい。
12. 岩手・県立盛岡第三 275点  
説明的な番組であり、これを取り上げたきっかけや高校生としての視点をもっと踏み込んで欲しい。
13. 長崎・市立長崎商 285点  
時間をかけた取材がよくまとまっている。完成度は高いのだが、制作者の興味深さが伝わってこない。
14. 北海道・札幌日本大学 278点  
念の入った準備に裏付けられた取材。音もしっかり

きこえるのだが、形状などの説明も欲しかった。

15. 長野・長野県松本美須ヶ丘 290点  
技術的には高いが、主張が今ひとつ伝わってこない。高校生としての切り口が欲しかった。
16. 広島・比治山女子 決勝進出
17. 愛知・光ヶ丘女子高等医学校 282点  
時間と手間をかけた取材であるが、どこに興味を持ってなぜ取り上げるのかわかりにくい。
18. 静岡・浜松市立 294点  
身近なテーマで、軽快なタッチに好感が持てる。構成もおもしろい。終わり方も説明じみてなく効果的。
19. 長崎・県立長崎北 277点  
音のバランス良い。真摯な迫りもよい。ただ番組に引き込む力が今ひとつで、表面的になってしまった。
20. 山口・県立山口農業 283点  
モノローグの手法で興味を惹き付ける。メッセージはよく伝わってくるが、ドキュメント番組としては疑問。
21. 北海道・北海道室蘭栄 279点  
やや地味な内容。鳴砂の音をアクセントにするなど、もう少し演出工夫すればより効果的。
22. 長野・松商学園 決勝進出
23. 岡山・県立自衛商業 282点  
多面的に捕らえたのはよいが、もっと絞り込みが必要。音質が今ひとつ。歌の使い方をより効果的に。
24. 兵庫・県立社 298点  
時間をかけ、良く取材され、素直な構成で重いテーマをしっかり表現している。ややタタミカケが強い。
25. 静岡・県立島田 272点  
一般論的になってしまっている。もっと自分たちの意見をはっきりし、作り込む必要がある。
26. 北海道・札幌龍谷学園 283点  
重いテーマを具体的な体験者を通して語らせ説得力ある。音量の差や構成が今ひとつで残念。
27. 沖縄・県立知念 274点  
具体例を示して考えよう。曖昧な理念と現実の体験との対比をうまくだしている。もっと掘り下げよう。
28. 神奈川・県立六ツ川 276点  
出会ったモチーフに正面から取材し、素直な構成であるが、高校生の視点、関心度がわからない。
29. 岡山・就実 288点  
メッセージがある。インタビューの仕方や音の録り方を練習して、取材をしっかり活かして欲しい。
30. 北海道・北海道札幌稲西 294点  
材料をよく集め、現代的なテーマを分かりやすく捉えている。一般論でなく高校生の考えも聞きたい。

31. 兵庫・啓明女学院 決勝進出

32. 富山・富山国際大付属 295点

流れや素材の扱い方がうまい。それぞれが感情をよく示しうまく綴っている。よくできている番組。

## テレビドキュメント部門 決勝